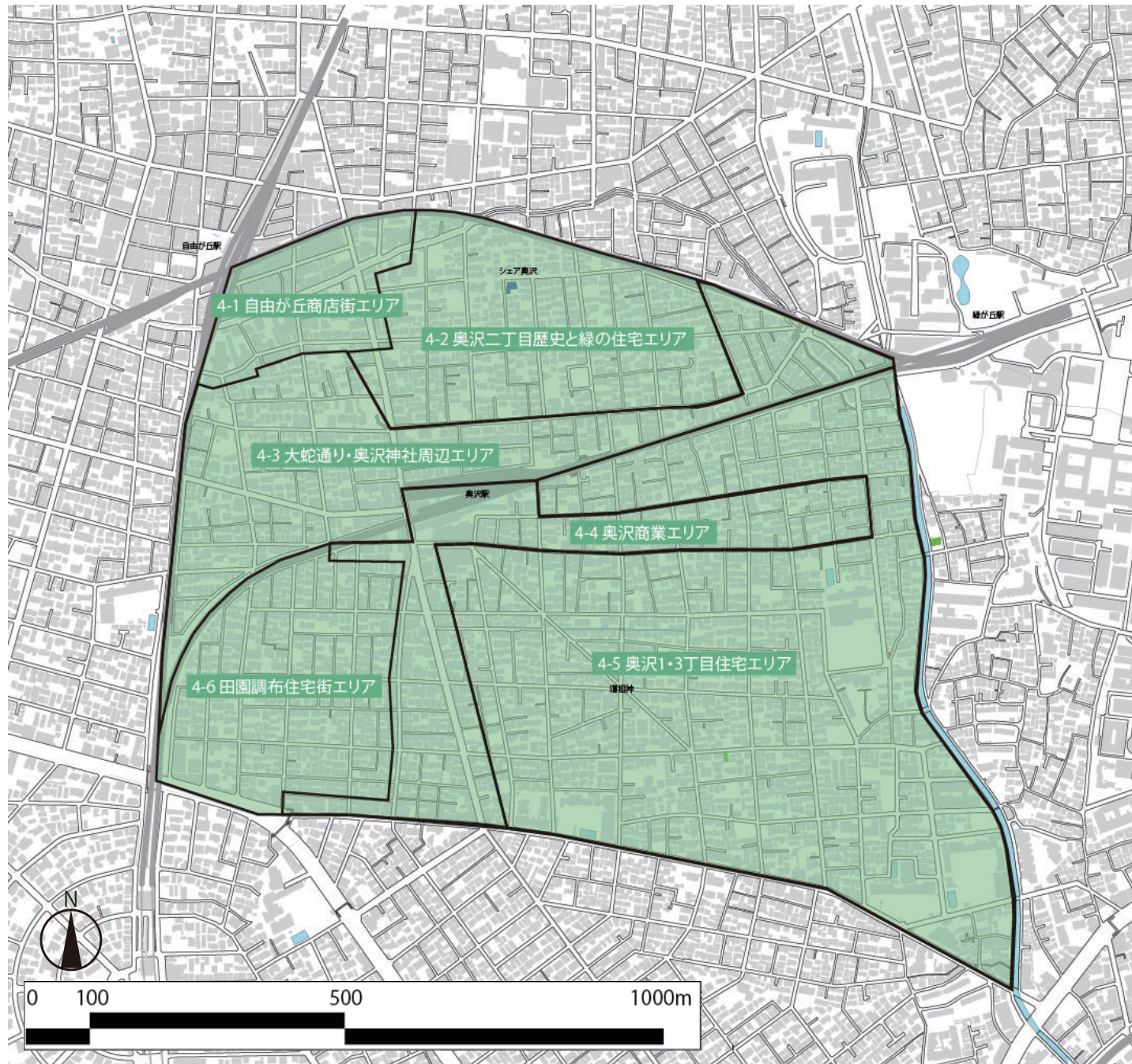
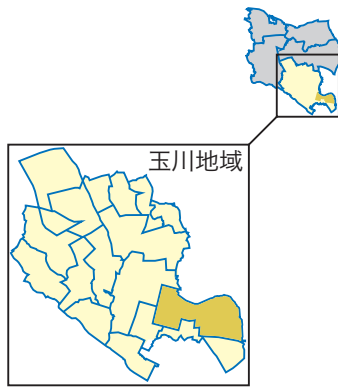


4 奥沢地区

「奥沢」という地名は、地域を流れる呑川の下流地方からみて「奥深い沢地」という意味から由来しています。奥沢地区は、東京都世田谷区の東南端に位置する奥沢1～3丁目と東玉川1・2丁目からなり、豊かな緑と穏やかな住環境が整備された地域です。この地は大正時代に多くの海軍士官が居住していた歴史を持ち、今も当時の面影を残した建物が存在しているのが特徴です。一方で、地域内には東急目黒線奥沢駅、東急東横線自由が丘駅、東急大井町線緑が丘駅の3つの駅を構え、自由が丘駅周辺を中心に「お洒落で洗練された街」というイメージを併せ持っています。



4-1 自由が丘商店街エリア
九品仏川緑道を中心とした、みどり溢れる景観の保全

4-2 奥沢2丁目歴史と緑の住宅エリア
歴史的資源と豊かな緑を生かした落ち着いた街並みへ

4-3 大蛇通り・奥沢神社周辺エリア
大蛇通りを中心とした緑の保全と住みやすい景観へ

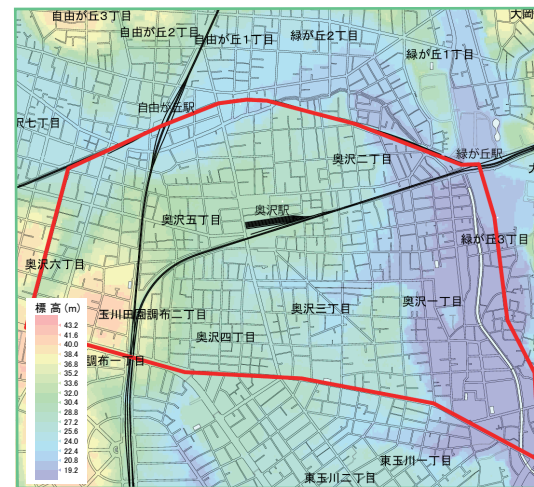
4-4 奥沢商業エリア
駅と商店街を中心に広がる緑のある景観の形成

4-5 奥沢1・3丁目住宅エリア
連続する緑と変化する街路空間によって、歩きたくなる街並みへ

4-6 田園調布住宅街エリア
直線的な街路空間と、みどり豊かな景観を活かした住宅地の形成

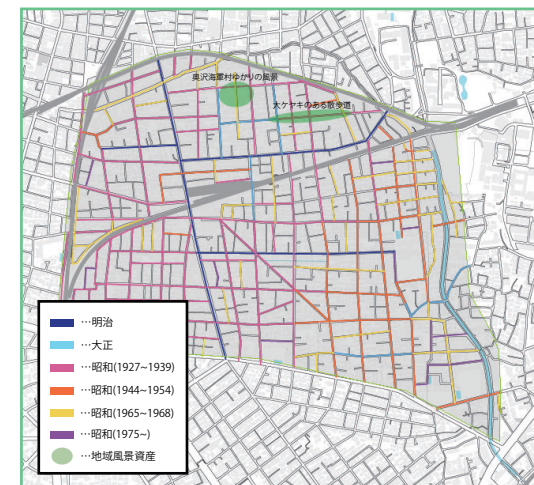
地区の概要

住商近接したすり鉢地形



奥沢周辺の標高

歴史を伝える住宅地



街路形成と歴史的資源

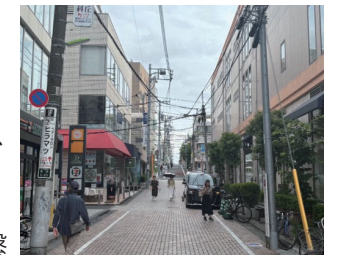
みどり豊かな住宅地と商業地



緑被現況分布図

駅周辺のすり鉢地形

自由ヶ丘周辺は、九品仏川緑道を底とした、すり鉢地形になっています。坂の下は商店街、上は住宅となっていて、地形による境界線が設けられています。また、境界のエリアは一階部分が店舗の住宅が多く、商店街と住宅を繋ぐ役割があります。



【4-1 自由ヶ丘商店街エリア】
地形による商店街との境界線

駅と駅を繋ぐ緩やかな傾斜

奥沢駅から下る大蛇通りの街路は、緩やかな傾斜とカーブが特徴的で、沿道には緑豊かな木々と落ち着いた住宅街が広がっています。道幅は比較的狭めながらも整然としていて、歩行者と車の通行が調和した静かな街並みが形成されています。



【4-3 大蛇通り・奥沢神社周辺エリア】
緩やかな傾斜とカーブの街路

玉川全円耕地整理事業

大正半ばまで近郊農村であったこの地区は、周辺地区の宅地化に伴い、住宅地への転換を予想し、現在の奥沢の基盤となる玉川全円耕地整理事業を実施しました。



【4-6 田園調布住宅街エリア】
耕地整理後の見通しの良い道

景観を形成する地域風景資産

住民によって継承されてきた街並みを創る緑や歴史的建物が点在しており、それにより良好な住環境が保持されてきた。現在でも行政、学校やNPOなどと連携した取り組みによって守り続けている。奥沢2丁目の「大ケヤキのある散歩道」や「奥沢海軍村ゆかりの風景」は世田谷地域風景資産として選定されている。



【4-2 奥沢2丁目歴史と緑の住宅エリア】
地域風景資産「奥沢海軍村ゆかりの風景」

歴史とみどり

大正12年頃、奥沢駅周りの土地の持ち主が独力で宅地開発を行い、海軍省本部や軍港などへの地の利から海軍士官が移り住んだという背景を持つ(大正末期～昭和初期)。玄関ポーチのある近代建築やシュロの木など、当時の面影が残る街並みが見られる。



【4-5 奥沢1・3丁目住宅エリア】
当時の面影を感じるポーチ付の玄関

奥沢駅前広場

奥沢駅から南東に伸びる道路は、基盤目状の街区を斜めに横切り、緩やかな高低差や豊かな緑、建物配置が魅力的な風景を作っている。駅前には「ふんすい広場」があり、界わり形成エリアの方針に基づき、緑豊かな街づくりが進められている。



【4-4 奥沢商業エリア】
緑あふれる奥沢駅前空間「ふんすい広場」